

未来づくり懇談会（下太田）会議録

日 時：平成29年7月4日（火）

18：30～20：01

場 所：下太田自治公民館

出席者：市長、教育長、総合政策部長、
経済建設部長、総合政策課長、
農林課長

1 開 会 18：30 進行：秘書広報課長

2 あいさつ 矢板市長

3 出席者紹介

4 矢板市設定テーマ

- 持続可能な矢板地区のまちづくりについて
- ・資料に基づき、人口推計等について説明。

5 行政区設定テーマ

- スマートICの整備について

昨年12月の説明では、アクセス道路は高速道路に行く車しか乗れない自動車専用道路と説明したが、地元要望であった一般車両の通行について自動車専用道路の規制が外れる方向で話が進んでいる。

今年度は工事の詳細設計を実施予定。幅杭の設置や補償物件の調査まで実施予定。

また、スマートIC整備が本年度から国庫補助事業化された。今までは調査費など単独事業でやってきたが、国庫補助を認めてもらった。

併せて県民の森矢板線について、県で拡幅整備することのこと。大江川と中川の橋も架け替えとのこと。下太田行政区の方には、この県道沿いにも田んぼや宅地を所有している方もいると思うので、ご協力・ご理解いただきたい。

- 県道（矢板那須線）バイパスの整備について

事業主体は県矢板土木事務所となる。

昨年12月の説明と同じになるが、計画位置や道路幅員などについて実施されたと思うが、変わらないと聞いている。2月から用地測量と境界確認が下太田起点の方から約1km実施されたと聞いている。

今年度も引き続き、用地測量、境界確認などを実施する予定と聞いている。今後の具体的なスケジュールは矢板土木事務所まで問い合わせしてほしい。

6 意見交換

Q 1 県道矢板那須線の下太田入口から南下してY字路までの区間に街灯がほとんどない。通学で利用しているので考えてほしい。

A 1 防犯灯は区長からの要請で設置することとなっている。下太田入口から南下してY字路の区間だと、荒井と下太田の行政区になるので、それぞれの申請が区長から必要。

Q 2 県道の街路灯であれば電気代は県が負担する。防犯灯は地元負担となるので、街路灯を設置してほしい。

A 2 街路灯は交通安全のため危険なところに設置となる。防犯灯については、電気料金の93%まで去年は補助をした。毎年LED化が進み、もっと補助ができると思う。街路灯は難しいので、防犯灯になると思うが、矢板土木事務所にお話しする。

平成 29 年度	街路灯の設置は、矢板土木事務所に要望。
平成 30 年度	防犯灯を設置予定

Q 3 最近では農業用機械が大型化し、農道の古い橋は狭くて通れない。橋を大きくするか、橋の欄干を広げることはできないか。

A 3 橋を広げるのは大変。橋の欄干を広げるなら機能、強さを確保しなくてはいけない。製品を探している最中だ。やる方向で検討を進めているが、河川管理者である県から占用許可をもらわないと工事ができない。

平成 29 年度	工法検討、製品、補修歩掛の見積徴収
平成 30 年度	測量・設計業務、工事施工予定

Q 4 中川の左岸右岸の堤防の道路を4m道路に拡張をお願いしたがどうか。

A 4 まずはスマートICの方を整備させていただく。4mとなると用地の協力が必要となるかもしれない。ある程度スマートICの見通しがついてからなので、順番は後になるが、並行して進めていければと思う。

Q 5 下太田幸岡線の待避所の倍増について。下太田の行政区だけでなく幸岡の行政区からも要望がある。田植えや稲刈りの時、路肩に機械を置いた場合、車がお見合いになる。待避所を増やすだけの予算がないのであれば、今の待避所の面積を倍に拡張するなどできないか。

A 5 現場を見たが、現在100mに一か所くらいある。これが通れるようになれば、その道を通って461号に出る車が多くなると推測できるので、相談になる。

Q 6 前の大水が出たときに護岸がやられてしまった。現況は道路がないところも、かつては農村公園から先で道路が抜けていた。砂利で形だけ残してほしい。

A 6 確かにその辺りも道方はあるにはあるが、利用はされていないと感じた。道方だけなら検討する。

Q 7 J T跡地のフットボールセンターについて、広大な土地を使用して、矢板市にどれだけの経済効果があるのか。定住促進に使うとか、何か経済効果が得られるようなものに使った方が有効ではないかと思う。

A 7 スポーツと観光を結び付けたスポーツツーリズムを活性化の中心にしていきたいと考えている。サッカーだけではないが、矢板市外からスポーツをしに来てくれる方を増やしていく。それによってお金を落としてもらおう。さらには定住にも多少はつながっていくような取り組みを展開していく。できるだけ財政負担を軽くし、規模を縮小しながら進めていければと今のところ考えている。

残り3分の1のスペースについては、市民の皆さんの健康づくり・生きがいづくり・にぎわいづくりの拠点し、市民の皆さんが集えるような、地域活性化の核になるような施設にしていきたいと思う。

Q 8 農業公社で後岡と大槻の旧家を利用して「おためしの家」を行っている。利用した方が定住した例もあるので、市でも検討して行動してほしい。

A 8 「おためしの家」は今でも農業公社の方で続いている。去年は大阪と東京の夫婦の二組のご利用があった。今年も4月から入っており、5月いっぱいだったん帰られた。定住につながったのは、今までで3件で6人。

平成 29 年度	2 棟貸出し	利用状況 1 件 2 人
----------	--------	--------------

Q 9 矢板市は平成10年の大雨の被害以外これといった自然災害が少ない条件のいいまちだと思う。そういったこともどんどんPRして呼び込める人は呼んで人口を維持していくというのも一つの方法だと思う。

Q 10 フットボールセンターや憩いの場が駅東側にできたとして、スマートICや矢板ICから車で来た場合の距離があるが、その辺りのビジョンはなにか市で考えているのか。

A 11 スタジアムではなく練習施設なので、一度に何千人もの方がスマートICを降りてフットボールセンターに行くということは考えにくい。ただ駅東にグラウンドができれば、人の流れや車の流れは変わっていくと思う。都市計画道路の「わかば通り（上田医院から中央通りに抜けていく通り）」が狭く、本年度調査をして検討を始めた。また周辺の道路交通についても、矢板の本通りを通る車両もあると思うので、本通りについても7月12日に県議会の県土整備委員会に要望活動をする予定になっている。

平成 30 年度	わかば通りの現況測量、詳細設計予定
----------	-------------------

Q 12 防災無線が聞き取れない。

A 12 防災無線だけで全てをカバーするのは難しいので、メール配信サービスや電話サービスなどの代替方法を利用してほしい。

平成 29 年 5 月	防災行政無線放送確認電話番号のチラシを全戸配布
平成 29 年 6 月	防災メール登録及び防災行政無線放送確認電話番号のチラシを全戸配布。
平成 29 年 11 月	防災行政無線放送確認するためのフリーダイヤル（通話料無料）電話番号のチラシを全戸配布。
平成 30 年 1 月	防災行政無線の聞こえ方調査を実施

Q13 人口推移の話で子どもが少ないということも深刻だが、嫁さんがいない。バスでお見合いをさせるなどできないか。

A13 婚活については、今まで市が直接イベントを行ったことはないので、本年度実施を予定している。

平成 28 年 11 月	やいた未来クラブ婚活イベント実施
平成 29 年 9 月	やいた未来クラブ婚活イベント実施
平成 29 年 11 月	地域少子化対策重点推進事業交付金を受けて事業実施 矢板市未来づくりプロジェクト 「やいた de ハッピーチェーン」 5 回実施 延べ 156 人
平成 30 年 5 月	矢板市婚活イベント企画運營業務委託を実施

Q14 5 年、10 年先の農地をどうするか。担い手の平均年齢が 68～70 歳と高くなっている。農協や市などでも考えてほしい。

A14 確かに農業従事者の高齢化は進んでいる。下太田の土地改良は昭和 40 年代前半に終えたものだと思うが、大型機械が入れないなど下太田だけではなく市役所の西側に共通する課題。県南部などでは二回目の土地改良なども始まっていて、一枚あたりを大区画にし、より集約化をしていく動きもある。そういったものを研究しないといけない。

Q15 停留所まで歩いて行けるような元気な人は、市営バスに乗らずに車で行ってしまう。停留所まで行けない体力の落ちている高齢者をどうするか。

A15 10 月くらいから市営バスの 75 歳以上無料化を行う。できれば健康づくりのためにも、免許証を返納したらバス停まで歩いてもらいたい。80 歳を過ぎた方は自宅前まで、というような二段構えの形で、高齢者の移動手段については検討している。

平成 29 年 10 月	75 歳以上の市営バス無料乗車券交付事業の実証実験
平成 30 年 4 月	65 歳以上の運転免許証自主返納者の市営バス無料化 65 歳以上 75 歳の誕生日まで
平成 30 年 4 月	75 歳以上の市営バス無料乗車券交付事業の本格実施
平成 30 年 4 月	福祉タクシー券交付事業の見直し 85 歳以上 → 80 歳以上 ※年齢引き下げ 月 2 枚（最大 24 枚） → 年 24 枚 市外タクシー業者との協定実施

6 閉 会 20:01